

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいさぼーとmoana2(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 25日		2025年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・他サービスとの連携による包括的な支援。	・同法人内の他サービスを利用している児童が多く在籍していることで、学校以外(事業所)での児童の様子や取り組んでいる支援など、連携を図りやすい環境。	・今後も法人を利用している児童を中心に訪問支援をしていき、システムとして構築していくことで、より包括的な支援を行える環境づくりをしていく。
2	・法人内に専門支援員(作業療法士)がいる事。	・訪問から持ち帰った解決が難しいケースに関して、専門的視点からアドバイスをもらい、それを支援に活かしている。	・困り感の中で解決が難しいものに関して、ケースカンファレンスを行い、しっかり記録し保管しておく事で似たようなケースの解決に役立てていく。
3	・経験年数豊富な支援員(児童発達支援管理責任者)が多く配置されている。	・今まで培ってきた経験や知識を使い支援を行い、訪問先と保護者とのやり取りなどを行って信頼関係を構築している。	・研修などを受講し、より良い支援が出来る様に自己研鑽をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門的な教具教材の確保。	・必要な教具教材の確認、訪問先の持ち込み許可など、あらゆる面でのリスクマネジメントが未実施。	・事業所内で会議を重ね備品をそろえていく。その際に訪問先への持ち込みの提案なども併せて行っていく。
2	・配置職員と利用児童の割合。	・利用児童に対して支援員の数が足りず、契約日数のすべてを訪問できていない児童も多少みられる。	・職員の配置数や利用児童の数を調整し、契約日数どおりに訪問できるようにしていく。
3			